

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日 令和 元 年 5 月 27 日

市所管部署 石巻市復興政策部地域振興課

2 法人名称等

法人名称	網地島ライン株式会社
法人所在地	石巻市門脇三丁目1-19
設立年月日	昭和 53 年 7 月 28 日
代表者職・氏名	代表取締役 安倍 友一

設立目的・経過  
 石巻市より同一航路に就航していた友福汽船(株)及び網地島漁協の一般定期航路事業部門を併合し、余剰船舶を緊急医療船として同島に常駐要望があったことから、海運局・宮城県・牡鹿町を加えた離島航路合併推進協議会を立ち上げたが、合併は難航した。これを解決するため、石巻市・牡鹿町・田代浜漁協が第三者出資し、昭和53年7月新会社を設立。平成18年には、石巻市の鮎川・網地島航路を併合し、以降島民の足として生活航路を担っている。

3 定款上の事業内容

- (1) 一般旅客定期航路事業
- (2) 売店及び食堂の経営
- (3) 観光事業
- (4) 上記に付帯する一切の事業
- (5)

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
10,000 千円	1,200 千円	12.0%	株式会社友福	5,000 千円	50.0% %
			宮城県漁業協同組合	3,500 千円	35.0% %
			田代島離島振興委員会	300 千円	3.0% %

※出資額が多い順に上位3者(個人は「個人」と表記)を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H28期末	H29期末	H30期末
常勤	1	2	2
うち市職員			
うち市退職者			
非常勤	6	6	6
うち市職員	1	1	1
うち市退職者			
計	7	8	8
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	0	0	0

(2) 職員

	H28期末	H29期末	H30期末
常勤	17	15	16
うち市職員			
うち市退職者			
非常勤	4	7	5
うち市職員			
うち市退職者			
計	21	22	21
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	0

※市職員(及び市退職者)とは、市の常勤の特別職及び一般職の者(及びそれらの職にあった者)で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

- 一、安全運航
- 一、観光客誘致により、減少する島民利用者数を補い、航路を安全且つ発展させ、島民の利便を確保する。
- 一、田代島緊急医療船の常駐により、島民の生命の安全を守る。

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度期
新造船の導入	隻	目標計画	0	2			
		実績	0	2			
目標・指標の説明		老朽船3隻は、安全運航上大きな問題があるばかりでなく、旧式のため交換部品の調達が難しくなっている。又、修繕に多額の費用が発生する。このことから、3隻を高速の2隻とし、経費節減の上、1時間以上の所要時間を大幅に短縮し、旅客の利便向上に資する。					
目標未達の場合の要因分析							

目標項目・指標	単位		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度期
ダイヤの見直し	回	目標計画			1		
		実績					
目標・指標の説明		3隻から2隻体制となり、利用者の更なる利便性向上のため、ダイヤの見直し、市街地公共交通との連結について実施する。					
目標未達の場合の要因分析							

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
離島航路事業 (一般旅客定期航路事業)	ゴールデンウィーク、夏季休暇期間など天気には恵まれ、1年間を通して安定した輸送人員を確保した。過去最高の輸送人員であった平成28年度と同様の乗客数となった。	懸案であった新造船の導入、中央寄港地の開設と事業を実施できた。門脇発着場周辺は復興事業により、駐車場確保が依然として課題となっている。	課題となっている駐車場確保については、堤防整備の遅れから離島航路駐車場用地も遅延しており、借地等で対応しているが、解決には至っていない。
事業の公共性、公益性	田代島は石巻市、網地島は牡鹿町と行政が分かれていたが、平成17年4月1日、石巻市と牡鹿町他5町が合併し新石巻市となり政治、経済、生活、物流等(郵便の航送も)の殆どを新石巻市(石巻港・鮎川港)とのパイプで繋がれています。当航路は島民唯一の交通機関であり、生活物資、環境衛生車両等の輸送を担っており、田代、網地島両島の主力産業である沿岸及び養殖漁業の漁獲物の殆どが石巻市の魚市場に、弊社船により輸送されます。また無医村である田代島には緊急医療船として、当社船が常駐しており、無医村の田代島、病院が有っても緊急患者の搬送を要する網地島島民の、生命を支える、重要な役割を果たしています。以上のことから当航路は公益上必要不可欠な航路であると思料されます。また、近年においては、田代島の猫を目的とした観光客が急増し、石巻市における観光客増加の一翼を担っています。		

9 市が期待する役割、市意見等(担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。

## 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

団体名称	網地島ライン株式会社
------	------------

## 1 財務諸表（金額単位：千円）

貸借対照表 (B/S)	借方(科目)	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
	流動資産	166,690	195,405	28,715	264,890	69,485
	うち 現金・預金	162,813	185,672	22,859	229,434	43,762
	固定資産	50,284	99,153	48,869	101,935	2,782
	有形固定資産	8,834	57,594	48,760	60,708	3,114
	無形固定資産	268	268		268	
	投資その他の資産	41,182	41,291	109	40,959	▲ 332
	資産の合計	216,974	294,558	77,584	366,825	72,267
	貸方(科目)	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
	流動負債	170,485	120,119	▲ 50,366	166,796	46,677
	うち 短期借入金	151,000	98,000	▲ 53,000	110,000	12,000
	固定負債		92,604	92,604	89,676	▲ 2,928
	うち 長期借入金		92,604	92,604	89,676	▲ 2,928
	引当金	13,642	19,301	5,659	19,860	559
	負債合計	184,127	232,024	47,897	276,332	44,308
	純資産	32,847	62,534	29,687	90,493	27,959
	うち 資本金	10,000	10,000		10,000	
	うち 資本剰余金					
	うち 利益剰余金	22,847	52,534	29,687	80,493	27,959
	うち その他					
負債・純資産の部合計	216,974	294,558	77,584	366,825	72,267	

損益計算書 (P/L)	科目	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
	売上高	124,067	118,925	▲ 5,142	121,771	2,846
	売上原価	166,993	171,696	4,703	174,701	3,005
	売上利益	▲ 42,926	▲ 52,771	▲ 9,845	▲ 52,930	▲ 159
	販売費・一般管理費	21,821	22,317	496	24,908	2,591
	営業利益	▲ 64,747	▲ 75,088	▲ 10,341	▲ 77,838	▲ 2,750
	営業外収益	109,113	153,766	44,653	164,124	10,358
	営業外費用	161	35,055	34,894	49,581	14,526
	経常利益	44,205	43,623	▲ 582	36,705	▲ 6,918
	特別利益		5	5	4,188	4,183
	特別損失	12		▲ 12		
	税引前当期純利益	44,193	43,628	▲ 565	40,893	▲ 2,735
	法人税等	13,887	13,941	54	12,934	▲ 1,007
	当期純利益	30,306	29,687	▲ 619	27,959	▲ 1,728

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。  
 ※財務諸表を添付すること。

## 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

区分	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減	
キャッシュフロー計算書（C/S）	営業活動によるキャッシュフロー	30,881	33,605	2,724	39,126	5,521
	税金等調整前当期純利益	44,192	43,628	▲ 564	40,893	▲ 2,735
	減価償却費	1,284	1,487	203	1,654	167
	その他引当金の増加額	5,658	5,659	1	560	▲ 5,099
	受取利息及び受取配当金	▲ 28	▲ 15	13	▲ 12	3
	支払利息	141	644	503	603	▲ 41
	売上債権の増加額	▲ 641	▲ 29	612	▲ 151	▲ 122
	その他	▲ 19,725	▲ 17,769	1,956	▲ 4,421	13,348
	投資活動によるキャッシュフロー	▲ 3,041	▲ 50,350	▲ 47,309	▲ 4,436	45,914
	保険積立金の増加額					
	長期前払費用の増加額	▲ 121	▲ 121		332	453
	有形固定資産の取得による支出	▲ 1,920	▲ 50,246	▲ 48,326	▲ 4,768	45,478
	有形固定資産の売却による収入	▲ 1,000	5	1,005		▲ 5
	長期貸付による支出		▲ 3	▲ 3		3
その他の増減		15	15		▲ 15	
財務活動によるキャッシュフロー	5,000	39,604	34,604	9,072	▲ 30,532	
短期借入金の減少額		▲ 53,000	▲ 53,000	12,000	65,000	
短期借入金の増加額	5,000		▲ 5,000			
長期借入れによる収入		92,604	92,604	▲ 2,928	▲ 95,532	
現金及び現金同等物に係る換算差額						
現金及び現金同等物の増減額	32,840	22,859	▲ 9,981	43,762	20,903	
現金及び現金同等物期首残高	129,973	162,813	32,840	185,672	22,859	
現金及び現金同等物期末残高	162,813	185,672	22,859	229,434	43,762	

（※1）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

## 2 市による財政・金融支援等（金額単位：千円）

区分	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
補助金（交付金・助成金・負担金）	5,829	5,979	150	6,078	99
事業費補助金（交付金・助成金・負担金）	5,829	5,979	150	6,078	99
管理費補助金（交付金・助成金・負担金）					
委託料及び指定管理料					
借入金（期末残高）	51,000	51,000		51,000	
短期借入金	51,000		▲ 51,000		
長期借入金		51,000	51,000	51,000	
出資・出捐（期末時）	1,200	1,200		1,200	
債務保証額（期末残高）					
損失補償額（期末残高）					
その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）					

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

# 情報公開シートⅡ補足資料

法人名： 網地島ライン株式会社

---

## 1 貸借対照表に関する補足

### (1) 総括分析

平成30年度についても最終損益が黒字となり、平成27年度からは債務超過、平成28年度から累積欠損額も解消されている。  
当期純利益は預金等の増加、負債の返済に充てられており、引き続き財務基盤の強化に軸を置いている。

### (2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
預金	43,740千円増	利用者増に伴う預金の増加
前受金	28,206千円増	補償費の増加
船舶	4,259千円増	新造船導入に伴う

## 2 損益計算書又は正味財産増減計算書に関する補足

### (1) 総括分析

航路利用者は安定的な増加傾向にあり、当期純利益は2,700万円と近年は安定的に推移している。ただし、今後は新造船導入に係る多額な経費が見込まれている。

### (2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
国庫補助金等収入	34,096千円減	欠損額減に伴う補助金の減額
その他補助金等収入	45,606千円増	新造船導入に伴う補助金額の増加
固定資産圧縮損	14,566千円増	新造船導入に伴う償却額の総額

### 3 キャッシュフロー計算書に関する補足

#### (1) 総括分析

営業活動によるキャッシュフローは十分な税引前当期純利益が確保されており、小計欄もプラスを確保できている。棚卸資産のマイナス分が無ければ、より多くの資金を生み出せている。営業活動によるキャッシュフローもプラスであり、存続には問題ない。

投資活動によるキャッシュフローは中央地区寄港地の追加による設備投資はマイナスだが、営業キャッシュフローで賄えているので問題ない。

財務活動によるキャッシュフローについては宮城県や市中金融機関より運転資金の貸付を受けていることからプラスになっているが、貸借対照表の預金等余裕があることから、大きな問題はないと思慮する。

#### (2) 数値が変動した区分及びその要因

項目	変動内容	変動要因
前払金	28,312千円減	構造改革補助金（新造船建造費用）
短期借入金	41,000千円増	県貸付金額の変更、運転資金の借入
未払金増加	4,403千円増	支払納期未到来

### 4 市による財政・金融支援等に関する補足

#### (1) 市からの補助金等の交付状況

補助金等の名称	補助金額(単位：円)	補助金の使途
離島航路維持費補助金	282千円	確保維持補助金市負担分
離島航路事業者経営安定化補助金	4,668千円	離島緊急搬送対策費（田代島夜間船舶待機費用）、島民割引市独自実施分

#### (2) 市からの委託業務等（指定管理含む）の状況

委託業務の名称	委託料(単位：円)	委託業務の内容

#### (3) 税、使用料、手数料等の減免の状況

減免されている税目等名称	減免額(単位：円)	減免理由

# 市が期待する役割、市意見等（別紙）

法人名：網地島ライン株式会社

担当部署名：復興政策部地域振興課

## 1 第三セクター情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）に対する意見

### （1）中間的な経営目的・事業計画

復興事業の錯綜により、利用者駐車場の確保が難しい状況であり、売上の減額が予想される。財務基盤強化のため、経費の見直しを行い、より効率的な経営を行い、島民の足の確保、観光客の利便性向上に努めていただきたい。

### （2）主要事業の成果、課題

東日本大震災後、航路利用者数は大幅に落ち込んだものの、観光施設の復旧、田代島の猫ブームなどにより、平成28年度以降は震災前を上回る活況となっている。

事業者としては、昨年度、中央寄港地開設、新造船導入など、変革の年となったが、駐車場整備などのインフラについては、大きな課題となっている。

## 2 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）に対する意見

### （1）貸借対照表

自己資本比率は32%と一般的な水準であるが、流動比率は158%と高く、支払能力に問題はなく、流動資産と流動負債の状況から資金繰りも問題ない状況である。

## (2) 損益計算書又は正味財産増減計算書

粗利益はマイナスであるが、国、県、市からの補助金により経常利益、純利益は大幅に黒字となっている。

## (3) キャッシュフロー計算書

営業が順調であるため、営業活動がプラス、投資活動がマイナスと理想的な状況であるが、運転資金用の短期借入金（宮城県、商工信用組合）が大きく財務活動はプラスとなっているが現金として持っている部分も大きく内容的には問題ないと思慮する。

## (4) 市による財政・金融支援等

当該航路における補助については、平成23年度より事前内定方式に変更され、補助申請の基本となる事業計画に対しても、国、県、市、航路事業者にて構成される協議会を経て作成しているため、より適正な事業計画が検討されており、それに基づいた運航による収支欠損に対し補助がなされている。

また、補助算定の基礎となる会計についても、詳細な会計検査を国、県、市により毎年度実施しており、資金の適正な執行について指導が徹底されていることから、今後も当法人に関する欠損に対する補助を継続しながら、離島航路事業を維持していく。

市からは、国庫補助の時点で黒字化するため、航路欠損分の補助はなく、島民割引及び島に常駐する緊急船に対して補助金を支出している。

## 3 法人に対し市が期待する役割等(担当部署所感)

島民唯一の欠かすことのできない生活航路としての役割を担っており、安全安心な公共交通として、今後も継続して運航に努める必要がある。

平成30年度に新造船2隻、中央寄港地の開設により大幅なコストの増加、離島航路駐車場が大幅に不足することから経費の増加が懸念されるが、コスト縮減など費用抑制を推進し、持続可能な公共交通としての維持を図る必要がある。